ホウレンソウのグリーンな栽培マニュアル

1　作　型

月 / 作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品　種
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
中山間 (ハウス)													春夏 「ジャスティス」 「ミラージュ」 秋 「クロノス」 「福兵衛」 冬 「寒兵衛」 「伸兵衛」

○－○：播種可能期間　　□：収穫

2　栽培のポイント

① 圃場準備

施設栽培では、連作のため土壌診断による適切な施肥が必要

過剰施肥にならない用に施肥設計を行う。

Ｐｈ、ＥＣが高い圃場では減肥する。

② 播種

・初夏まきのホウレンソウはとう立ちしやすいので、晩抽性の品種を選ぶ。

・べと病常発圃場では抵抗性品種を用いる。

・春採り、秋採りの作型では、収穫時期にべと病の好発条件となるので、混み合わないよう、株間・条間を広めにする。

③ 病害虫防除

・ホウレンソウケナガコナダニ

10～６月頃に収穫する作型で、本葉２～４葉期頃に被害が発生。

高湿度を好み、土壌が乾燥するとホウレンソウへ移動しやすくなる。

＜対策＞

未熟たい肥を避ける。夏季の太陽熱消毒。

生育初期に極端な乾燥をしない水管理。

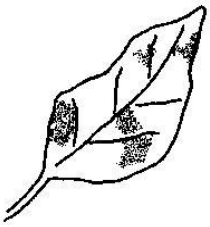
・べと病

発病適温は８～18℃、特に 10℃前後で曇雨天が続くと多発しやすい。

春と秋の２回発生するが、近年、暖地では 12～３月にも発生がみられる。

軟弱徒長、排水不良は発生を助長する。

被害残さに残るべと病菌（卵胞子）も伝染源になる。



＜対策＞

抵抗性品種を利用。

適切な施肥量とし、採光条件の良い環境下で徒長させない。

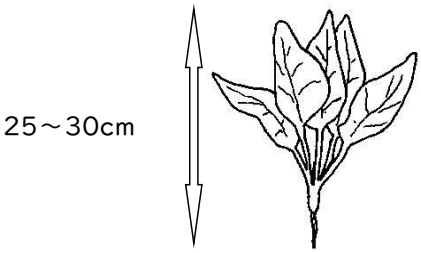
発病株は早期に圃場外へ持ち出し、効果的な太陽熱消毒を実施。

圃場の風通しを良くすることで、葉濡れ（結露）時間を減らす。

→循環扇の利用も有効。循環扇の稼働時間については検証中。

④ 収穫・出荷

草丈 25～30cm 程度で収穫。傷んだ葉を取り除き、150ｇ程度の束にして出荷。



3　除草対策

① 圃場内

完熟たい肥の利用、太陽熱消毒、ハウス入り口付近に除草シートを敷くのも有効。

② 圃場周辺

平地面では、リモコン草刈機を用いることで、除草時間が刈払機の約 1/3 になる。

ただし、急斜面ではウインチ（巻き上げ機）を使う必要があり、導入の際は使用する場所や維持管理コスト等も併せて慎重に検討する必要がある。